



平山病院 だより

平山病院 理念

地域の皆様から
愛され信頼される
質の高い医療を
目指します。



日本医療機能評価機構

当院は病院機能評価
の認定を受けました



新年のご挨拶

病院長 平山 登志夫

新年あけましておめでとうございます。皆様、新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は病院の増改築工事があり、期間中は患者様や近隣の皆様には大変ご迷惑やご不便をおかけしました。おかげさまで工事は無事に完了し、7月からは34床増床してリニューアルオープンをすることが出来ました。これもひとえに皆様方のご支援、ご厚情によるものと深く感謝申し上げます。

医療を取り巻く環境は非常に厳しいものがありますが、これからも地域に根ざした病院として、引き続き良質な医療・看護サービスの提供に職員一同努めて参る所存です。皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、医療を取り巻く社会情勢が少しでも好転し、今年一年が皆様にとって平和で実りの多い年であることをお祈りいたします。



新年明けましておめでとうございます。



2011年

皆様はどのようなお正月を迎えましたか？今年の三が日は、天候に恵まれましたが、とても寒かったので寝正月の方も多かったのではないのでしょうか？今年一年が皆様にとってよい年でありますようにお祈りいたします。



千葉市内から見た初日の出と富士山 (撮影 鈴木義郎)

平山病院 基本方針

- ・ プライマリーケアの充実
- ・ 各科連携による良質な医療の提供
- ・ 地域の保健・医療・福祉施設との連携
- ・ 教育・研修の充実
- ・ 信頼と奉仕に基づいたサービスの提供

《患者様の権利》

1. 適切な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明と情報提供を受けた上での医療の内容を選択する権利があります。
3. 他の医療機関の医師の意見を求める権利があります。
4. 患者様の個人情報・プライバシーが保障されます。

『前立腺がんの基礎知識』

泌尿器科医師
杉村 享之

前立腺がんが増えている！

前立腺がんは欧米と比べて患者数が少ないガンの1つでしたが、近年の日本では急激に患者数が増えています。1975年に年間約2400人だった患者数が2006年には2万3000人、なんと約10倍の患者数です。



前立腺がんが増えた原因

日本で急激に前立腺がんが増加している原因として、食生活の欧米化があげられます。タンパク質、脂肪の多い食事が前立腺がんや前立腺肥大症の増加に影響していると考えられます。また、平均寿命が延びたことで高齢者が増加したことも大きな理由の1つです。



前立腺がん患者の約90%は60歳以上であり、前立腺がんが発見される機会も50歳を超えてからがほとんどです。前立腺は男性ホルモンによって支配されているため、加齢による男性ホルモンの影響が前立腺の病気発症に関わっていると考えられます。このほか検査技術の進歩によって前立腺がんの発見が容易になったことも影響しています。

前立腺がんの初期にはほとんど自覚症状がないため、ガンを発症していることに気付かないケースも多々ありましたが、最近では前立腺腫瘍マーカー（PSA）が測定できるようになったことで、人間ドックをはじめ日常診療でも前立腺がんの早期発見が可能となりました。

前立腺がんと前立腺肥大症の違い

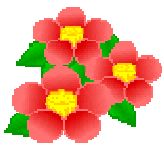


前立腺がんと前立腺肥大症は、おしっこが近くなったり、出にくかったりなど、症状が似ているため、前立腺肥大症から前立腺がんに進行すると考えている人がいますが、そのようなことはありません。前立腺がんと前立腺肥大症は同じ前立腺でも発生する場所やメカニズムも異なります。前立腺を夏ミカンに例えますと、前立腺がんは前立腺の外側（夏ミカンの皮の部分）に位置する外腺に発生しやすい一方、前立腺肥大症は尿道を取り巻く内腺（夏ミカンの実の部分）に多く発症します。どちらも前立腺に発生する腫瘍に変わりありませんが、決定的な違いは前立腺肥大症が良性であるのに対し、前立腺がんは悪性であるということです。前立腺肥大症は仮に治療しなくても生命に危険を及ぼすようなことはありませんが、前立腺がんは進行すると骨やリンパ節に転移するため死に至ることもあります。

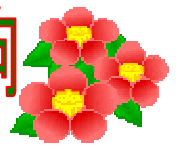
前立腺がんを早期に発見するためには？

前立腺がんは早期に治療すれば約90%が完治できるガンですが、自覚症状が乏しいため、早期に発見するのが難しいガンでもあります。現在のところ、前立腺がんの詳しい発症メカニズムが解明されていないため、有効な予防手段はありません。しかし、検診では胃ガンや肺ガンよりも発見率が高いため、定期的に検査を受けて早期発見の機会を増やすことが何よりも大切です。このためには、自分で積極的に検診を受けたり、泌尿器科を受診することをお勧めします。一度、自分のPSA値を確認しておくことは前立腺がんの早期発見に非常に役立つと思います。





CT・MR・VF(嚥下造影検査)などの画像診断の動向



【当院の画像診断には以下のような検査方法があります。】

CT

すべてにおいて輪切り・縦切り・横切りなどの写真や3Dが3~5分で撮れます。



CT



MR

解剖学的情報と組織の病的変化の撮影に優れ 20~30分できれいに撮れます。



オープン型MRIの利点を生かし、圧迫感のない検査が出来る。

平成21年度 検査実施表

	CT	MRI	エコー	内視鏡
4月	278		195	34
5月	288		173	47
6月	326		209	46
7月	339	112	210	61
8月	352	90	221	48
9月	338	91	212	60
10月	387	74	231	71
11月	289	55	188	58
12月	361	78	200	61
1月	314	86	182	55
2月	265	74	181	42
3月	361	91	210	57
計	3,898	751	2,412	640

(単位/人)

VF

(飲み込みの辛い方、食べた時咽喉の奥に違和感のある方、咳き込んだり誤嚥になりそうな方にお勧めします)

石田Dr.による嚥下(VF)検査が出来るようになりました。毎週一回、透視を使ってご家族の方も一緒にご覧いただけます。



*** 外来診療 担当医師一覧表 ***

平成23年1月現在

診療科目		月	火	水	木	金	土
外科	午前	平山 登志夫	平山 登志夫	平山 登志夫	平山 登志夫	平山 登志夫	平山 登志夫
	午後	渥美 隆之		黒木 義浩	渥美 隆之		
内科	午前	高橋 万里子 (糖尿病)	鈴木 佐和子	谷田部 博嗣 (総合内科)	富塚 卓也 (糖尿病)	毛利 勝昭 村井 正一郎	吉田 知彦
	午後	毛利 勝昭	毛利 勝昭	平出 智晴 (神経内科)	富塚 卓也 (糖尿病)	毛利 勝昭	吉田 知彦
整形外科	午前	渡邊 寛 (手の外科)		斉藤 公久 (リウマチ)	渡邊 寛 (手の外科)	渡邊 寛 (手の外科)	斉藤 公久 (リウマチ)
	午後						
皮膚科・ 形成外科	午前			土肥 輝之			
	午後			土肥 輝之			
泌尿器科 (要予約)	午前	杉村 享之		杉村 享之			杉村 享之
	午後		杉村 享之				杉村享之 第1.3.5週 皆川真吾 第2週 岩淵敏久 第4週
精神科・ 神経科 (要予約)	午前				青鳶 和宏 (2.4週)	砂川 裕之	
	午後						青鳶 和宏 第1.3週 13:30~16:00
眼科 14:30~17:00	午前						
	午後				出口 雄三		
耳鼻咽喉科 14:00~17:00	午前						
	午後		野村 俊之 (1週) 鈴木 光也 (2~5週)			鈴木 光也 (1週) 野村 俊之 (2~5週)	
特殊外来 (要予約)	午前	北園 美弥子 (呼吸器科)	木暮 裕 (循環器内科)	渡邊 寛 (手の外科) 益子邦洋(外科・救急)			平山 暁 (腎臓内科) 月1回
	午後	平出 智晴 (神経内科・物忘れ)	徳弘圭一(心臓血管外科) 第3週 14:00~ それ以外 17:00~			角田 優(心臓血管外科) 西村倫太郎(呼吸器科)	廣島 健三 (呼吸器科) 第3週

➡ 診 療 日 ➡ 月曜日 ~ 土曜日 (但し、祝日・12月31日~1月3日は休診)

➡ 診 療 時 間 ➡ 午前 9:00 ~ 12:00 (12:00まで受付致します)
午後 13:30 ~ 17:00 (17:00まで受付致します)

* 都合により診療時間及び担当医が変更となる場合がございますので、予め外来及び受付にお確かめ下さい。

* 特殊外来受診希望の方は窓口又は電話にてご相談下さい。

物忘れ外来(平出医師)・・・月曜 AM、水曜 PM
糖尿病外来(高橋医師・・・月曜 AM)、(富塚医師・・・木曜1日)
急患の方は、日曜・祝日・時間外も受付致します。

・ 平山病院だより 第22号

平成23年1月発行
編集担当:平山病院 広報委員会

〒262-0046 千葉市花見川区花見川 1494-3
TEL: 043-259-4525 FAX: 043-258-1425

ホームページもご覧下さい。

<http://www.hirayama-hospital.jp>



編集後記

2011年も明けました。

全国的にインフルエンザが猛威を振っています。ほとんどの方は、季節性インフルエンザと同様に、高熱・咳・咽頭痛・頭痛・倦怠感などの典型的な重い風邪症状+下痢などの消化器症状だけで回復しています。しかし、呼吸器疾患・心疾患・腎疾患・糖尿病・免疫機能不全などの基礎疾患を持っている方や妊婦・乳幼児・高齢者の方は重症化することが多いようです。

(N.H)